

ゆめ・まち・みらい vol.37

阪急阪神ホールディングスグループ社会貢献活動

「阪急阪神 未来のゆめ・まちプロジェクト」グループ従業員向け情報誌 [2018年春号(年4回発行)]



ぜひご家庭でもお読みください

夢を力に変える人 No.10

アイデアとデザインで 防災を楽しく伝える

NPO法人 プラス・アーツ

- ゆめ・まち サバイバルキャンプ
- グループ従業員の ボランティア活動レポート
- 阪急阪神 未来のゆめ・まち基金 助成対象団体レポート



ソーシャルグッツ
読者プレゼント 詳しくは裏表紙へ



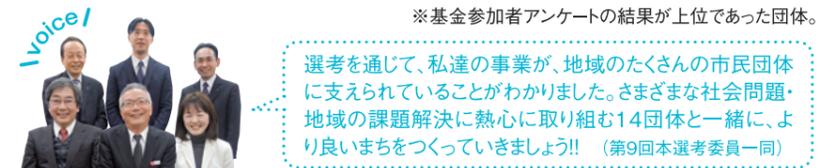
阪急阪神ホールディングスグループ

こちら事務局

「阪急阪神 未来のゆめ・まち基金」第9回助成先決定!

皆さまの募金に会社が同額を上乗せして、市民団体を助成するゆめ・まち基金。2017年度は86団体から申請があり、書類選考・基金参加者アンケートの結果をふまえ、本選考会で14団体への助成を決定しました。

- 1 御願塚史跡保存会 地域の古墳の保存継承・環境保全
- 2 NPO法人 スマイルひろば(※) 多世代交流のできる笑顔のまちづくり
- 3 一般社団法人 タウンスペースWAKWAK 地域のみんなで支え合うまちづくり
- 4 フィールドノサイエティ 大文字山麓における環境学習活動
- 5 こくさいひろば芦屋 外国にルーツを持つ子どもへの学習支援
- 6 公益社団法人 子ども情報研究センター こどもの電話相談・面接相談
- 7 NPO法人 子どもデザイン教室 自己肯定感の向上を図るデザイン教育
- 8 NPO法人 C・キッズ・ネットワーク こどもの消費者教育・啓発活動
- 9 NPO法人 すいた体験活動クラブ 学校での体験型環境学習支援
- 10 NPO法人 ダウン症ファミリー総合支援めばえ21(※) ダウン症児・者とその家族への支援
- 11 団楽長屋プロジェクト 多世代でつながる子育て空間づくり
- 12 一般社団法人 new-look(※) 高校中退者の社会復帰支援
- 13 認定NPO法人 ノーベル(※) 関西初の訪問型病児保育
- 14 NPO法人 山科醍醐こどものひろば(※) 地域で子ども達と考える居場所づくり



※基金参加者アンケートの結果が上位であった団体。
選考を通じて、私達の事業が、地域のたくさんの市民団体に支えられていることがわかりました。さまざまな社会問題・地域の課題解決に熱心に取り組む14団体と一緒に、より良いまちをつくっていきましょう!! (第9回本選考委員一同)

ポイントがつながる社会貢献の輪:「社会貢献ポイント制度」

グループ従業員やOBの皆さまの、地域・社会への貢献活動を応援する「社会貢献ポイント制度」。2017年もたくさんのご申請をいただきありがとうございました!

参加会社	71社 (前年比 △1社)
会員数	2,253人 (前年比 +181人)
ポイント進呈数	15,281ポイント (前年比 +1,472ポイント)
ポイント交換数	4,552ポイント (前年比 △28ポイント)

※内訳:市民団体への寄付1,378ポイント、六甲山に植樹する苗木599ポイント、フェアトレード商品への交換2,575ポイント



<ポイント交換のお知らせ>ポイント制度会員の皆さまに、5月上旬頃にポイント残高通知書をお届けします。皆さまが貯めたポイントは1ポイント10円相当で、フェアトレード商品や、市民団体への寄付などに交換可能。ご希望の方は、通知書をご覧のうえ、5月31日(木)までに申請ください。

《ご報告》書き損じハガキ回収結果 過去最高の71社238拠点で回収にご協力いただきました。

ハガキの回収にご協力いただいた従業員の皆さま、回収箱の設置や従業員への周知にご協力いただいた各社担当者の皆さま、ありがとうございました。皆さまからのお気持ちを切手に換え、NPO法人Japan Hair Donation & Charityに届けました!

寄付額: 197,542円 相当 (回収枚数:ハガキ3,755枚、未使用切手36枚)
傷病により頭髮に悩みを抱える子ども達の医療用ウィッグ製作に役立てられます。



ソーシャルグッツ 読者プレゼント

5名様に
プレゼント
非常食としていかが?
ボローニャのパンの缶詰
(2個入り)



防災用や、アウトドア用としても!

長期保存が可能、オシャレで 美味しいパンの缶詰

京都・祇園発祥「ボローニャ」のデニッシュ缶パンです。味はプレーン・チョコ・メープルの3つ。賞味期限が最大3年3か月と長く、非常食にぴったり。缶詰だけどデニッシュ特有の優しい甘さとしっとりとした食感を味わえます。またイラストレーター落合恵さんのデザインが可愛く、インテリアとして飾っても素敵。いざというときにすぐ手の届くところに備えられます。ギフトとしても喜ばれそう。

価格/864円(税込)
販売/有限会社マーズ
URL/https://mars-stores.com/

ご希望の方は下記事務局までメールでお申し込みください。メール件名を「パンの缶詰プレゼント希望」とし、本文に「氏名」「所属会社」「部署名」「送付先の住所・電話番号」「ゆめ・まち・みらいの感想」を明記してください。

応募締切:2018年5月31日(木)

編集後記

防災は、自らを守るだけでなく、地域を守る社会貢献につながります。今回のロハス度チェックは、身近なグッツがいざというときに役立つ目からウロコのアイデアをご紹介しているので、ぜひ挑戦を!(相良有希子)

災害が発生したときに地域に貢献できる人になりませんか?特集で紹介したNPO法人プラス・アーツと災害時に役立つ知識・技術を楽しく学べるサバイバルキャンプを企画しました!ぜひご参加ください!(山本英美)



阪急阪神 未来のゆめ・まちプロジェクト事務局

(阪急阪神ホールディングス 人事総務室 総務部 社会貢献担当)
shakai@hankyu-hanshin.co.jp
TEL: 06-6373-5086 FAX: 06-6373-5174
URL: http://www.hankyu-hanshin.co.jp/yume-machi/
※グループ従業員向けページの「ユーザー名」、「パスワード」は8984です。



「阪急阪神 未来のゆめ・まちプロジェクト」とは「未来にわたり住みたいまち」づくりをめざし、「環境づくり」と「人づくり」の分野で、グループ各社の社会貢献活動の推進、市民団体の支援、従業員のボランティア活動の応援の3つに取り組む当社グループの社会貢献活動です。

阪急阪神 ゆめ・まち 検索

夢を力に変える人 No.10



NPO法人 プラス・アーツ

アイデアとデザインで 防災を楽しく伝える

「イザ!カエルキャラバン!」「レッドベアサバイバルキャンプ」「地震ITSUMO講座」…
何だか聞いただけでワクワクするが、全て防災をテーマにしたイベントの名前だ。
これらを日本中、いや世界中で展開しているのがNPO法人プラス・アーツである。

多 彩で広範なプロジェクトを次々と生み出す中で、プラス・アーツが大切にしているのは何だろうか? その質問に永田さんは「大きく2つあります」と答える。「ひとつはデザイン。企画やアイデアに強

プ ラス・アーツは、この他にも防災をテーマとした創造的なプロジェクトを多彩に展開している。例えば「レッドベアサバイバルキャンプ」は、キャンプを通じて災害時にも生き抜く力を身につける避難生活体験プログラム。火おこし、ロープワークなどさまざまなサバイバル術を学ぶ。また、書籍の出版や防災セミナーの開催、さらには魅力的な防災グッズや防災教育ゲームなどの販売も行っている。

ありました」。しかしバッシングの一方で、カエルキャラバンは確実に参加者の心をつかみ、開催希望者は増えていった。「個人事務所で は次第に立ち行かなくなり2006年、NPO法人プラス・アーツを立ち上げました」。今やカエルキャラバンは日本中で開催され、参加人数は延べ25万人以上。海外からのオファーも多い。とはいえ永田さんがめざすのは単にマニュアル通り拡大することではなく、それぞれの国や地域にフィットするような「ローカライズ」なのだとか。「例えば、カエルのキャラクターが沖縄ではヤモリになり、イランではウミガメに(笑)。また紙食器づくりの紙がタイではバナナの葉になったり。ローカライズされるのは、私達のアイデアが地域の中に根つき、地域が自立して開催できるようにいった具合だと思っんです」



⑤「レッドベアサバイバルキャンプ」では「ロープワーク」「火おこし」をはじめ「灯明づくり」「紙食器づくり」「サバイバルクッキング」など多彩なプログラムがあり、1つマスターすることに魅力的な技のイラストの缶バッジがもらえる。⑥プログラムで使用するグッズもデザインにこだわっている。Tシャツ、バンダナ、軍手などはイベント主催者向けに販売もしている。⑦人形を使った「毛布で担架タイムトライアル」に挑戦するインドネシアの子ども達。日本では毛布だが現地では「サロン」という巻きスカートを使う。⑧「イザ!カエルキャラバン!」のキャラクターが沖縄ではヤモリに。イベント名も「リッカ!ヤールキャラバン!」に。⑨さまざまな防災の知恵が詰まった書籍「地震イツモノート」や、遊びながら防災を学ぶゲームなどを制作。ユーモラスでわかりやすい寄藤文平氏のイラストが秀逸。⑩「イザ!カエルキャラバン!」は33都道府県、世界19か国に広がっている。



①②「イザ!カエルキャラバン!」のプログラム、水消火器でのあてゲームに夢中に取り組む子ども達。③家具転倒防止ワークショップでは、地域住民がスタッフとなり楽しく子ども達に伝える。④永田宏和さん。企業や自治体、学校などあらゆる団体と連携する多忙な日々を送る。「やりがいですか?やっぱり参加者の生き生きした表情ですね。それがひいては子ども達の命を守ったり災害の被害軽減につながるわけですから。楽しくて仕方ないんです」



NPO法人 プラス・アーツ

各プロジェクトの開催情報はウェブサイトをチェックできます。また活動に賛同される方は「正会員」「賛助会員」「学生会員」いずれかの形で応援することも。

【神戸事務所】〒651-0082
神戸市中央区小野浜町1-4
デザイン・クリエイティブセンター神戸307
TEL:078-335-1335

【東京事務所】〒135-0021
東京都江東区白河3-7-6 白3木下ビル101
TEL:03-6458-5375

E-mail: info@plus-arts.net
URL: <http://www.plus-arts.net/>

度々を与えるのがデザイン力だと私は思っています。だからこそ多くのプロジェクトに、寄藤文平さんという著名なクリエイターを起用しました。もうひとつは、カエルキャラバンで紹介したようなローカライズ。地域ごとにプログラムをアレンジしてもらったためには、あまり完璧な仕組みをつくらず不完全な部分を残すようにしています。誰もが親しみを感ずる魅力的なデザイン。誰もがアレンジできる不完全なカタチ。相反する2つのミッションを両立させているからこそ、プラス・アーツのプロジェクトは普遍性を獲得したのではないだろうか。今後は、これらを根づかせていく「担い手の育成」が目標であると永田さん。「私達だけがプレイヤーになっていた先がない。それぞれの地域に、それぞれの国に、責任と熱意をもって防災教育を担ってくれる人材が育てば、プロジェクトはサステイナブルになるのです」

防

防災訓練というと、昔ながらの定番の行事を想起させるが、「イザ!カエルキャラバン」は違う。ゲーム感覚で楽しみながら、子ども達が災害時に必要な知識や技を学べる、新しい発想の防災訓練である。その仕組みはこうだ。子ども達がいらなくなったおもちゃを会場に持ってきたり、さまざまな防災プログラムに参加することで「カエルポイント」がもらえる。貯まったポイントを会場に集められたおもちゃに交換できる。防災プログラムは「水消火器のあてゲーム」「紙食器づくり」など工夫が凝らされ、最初はおもちゃ目当てだったことも達も、次第にプログラムに夢中になるのだ。「マンネリ化、人が集まらない…従来の防災訓練の課題を解決する画期的な場づくりをしたかったんです」と語るのは永田宏和さん。カエルキャラバンを運営する、NPO法人プラス・アーツの理事長である。

き

きっかけは阪神・淡路大震災10年目。ある永田さんに、神戸市から「子ども向けの防災イベントを考えてほしい」と依頼されたのが始まりだとか。そこで、永田さんは、カエルキャラバンを開発したのだが、その際に心がけたのは、当事者の声を取り入れること。とにかく楽しく学べる。こと。「被災者の方々へのヒアリングとアンケートを通じて、合計167名の声を集めました。同時に、誰もが参加したくなるような楽しいプログラムにすることもこだわったのです。防災を楽しむなんて…とスタート当初は非難もへ

グループ従業員の ボランティア活動レポート

従業員・OBの皆さまの参加するボランティア団体に、阪急阪神ホールディングスが上限3万円を支援する「ゆめ・まち「ええこと」応援団」。昨年度の支援先と、参加従業員・OBの方のコメントをご紹介します。

2018年度
vol.1

初申請の4名を
ピックアップ!!



ボランティアで指導・運営している中、このような支援をいただけるのは、嬉しいことです!



体育館の使用料やボールケースの購入費に、活動の幅が広がりました。



支援金で一つひとつの行事にかけられるお金が増え、より良いものができました。

ヤング神戸三田イーグルス/神戸市

■ 阪急電鉄 依藤佐登美さん
将来、さまざまな分野で活躍するために自律心を育成する硬式野球チーム。

名和SUNDEVILS/尼崎市

■ 阪神電気鉄道 玉沖名穂子さん
競技を通じて心身を鍛え、規律正しい社会人を育成するバスケットボールチーム。

保城青年部/姫路市

■ 阪急電鉄 入江優崇さん
地域行事の運営を通して、住民同士の交流が活性化するように努めています。



枚方牧野シャインズ/枚方市
■ 阪急バス 木村敬さん

勝ち負けより心から楽しむ
大切さを伝えています。

笑顔を決やさずがんばる「一笑懸命」がモットーの、小学生を対象としたバレーボールチーム。初めはうまくできなかったサーブやパス、アタック。それが練習を重ねることで、できるようになったときのこども達の笑顔は格別で、監督やスタッフのやりがいとなっています。競技するうえで勝ち負けも大事ですが、それに固執せずスポーツを心から楽しんでほしい。そして活動を通してバレーボールの魅力を知り、中学校や高校でも続けていきたいと思うきっかけになれば嬉しく思います。

支援金でボールカゴを購入。大切に使用させていただきます。



FC葦原 /茨木市

■ 阪急バス 平山博志さん
サッカー用品を購入でき、こども達に喜ばれました。

日本ボーイスカウト神戸 第37団/神戸市

■ 阪急電鉄 和田等さん
資金不足の中、支援金が充実した活動の財源に。

大山崎ふるさとガイドの会 /大山崎町

■ 阪急タクシー 加藤良一さん
支援金は、当団体と会社との協力の証です。

武庫山わんぱく会 /宝塚市

■ 阪急電鉄 隅田和博さん
畑作業でこども達が成長しているのを実感します。

別所ファイターズ /三木市

■ 阪急阪神電気システム 鳴瀬裕信さん
軟式野球で、こどもの身体や協調性などを育成。

千里南丘少年野球部 /豊中市

■ 阪急コンストラクション・マネジメント 善真一さん
バックネットを購入し、練習の効率がアップしました!

応募多数
につき
総額予算UP!

「ゆめ・まちええこと」応援団

2018年度応募受付中! 2018年5月31日(木)締切

グループ従業員・OBの皆さまが携わる地域の「ええこと(=ボランティア)」を支援することで、「未来にわたり住みたいまち」づくりを応援します。

従業員・OBが活動する
ボランティア団体を3万円まで支援!

「地域環境づくり」・
「次世代の育成」の活動資金に!

※1団体あたり3万円上限(総額150万円まで、応募多数時は抽選)※事務局による審査を経て、7月中旬までに結果をご連絡します。
※団体代表と当社グループ従業員・OB連名で申請書に記入・捺印のうえ、ゆめ・まちプロジェクト事務局まで原本をご送付ください。

申請書のダウンロード・詳細はwebで <http://www.hankyu-hanshin.co.jp/yume-machi/group.html>

(「ユーザー名」、「パスワード」は8984)

皆さんの
ボランティアを
応援します!
ご応募
お待ちしております!



参加者
募集!

ゆめ・まち サバイバルキャンプ

災害時に必要なことはキャンプで学べる。

災害が多発する現在、もしものときに、あなたには何ができるだろうか?
自分の身も守れず、なおさら人を助けることなんてできない...
そんな人も多いのではないだろうか。

そこで、災害時に役立つ技術を楽しく学べるサバイバルキャンプを開催。
ぜひご参加を。



レッドベアサバイバルキャンプ

キャンプでも
使える技術を
学べる!

日頃交流のない
グループ従業員と
知り合える!

当日のプログラム

1

阪神・淡路大震災
についてのお話

震災発生時の実際の状況について知ろう。助け合いの大切さについて学びます。

2

サバイバル
ワークショップ
~自助編~

災害発生時には行政の救助(公助)には限界が。資源の限られるサバイバルな状況で、まずは自分の身を守る技術を学ぼう!
例:火おこし・空き缶炊飯

3

サバイバル
ワークショップ
~共助編~

身の回りにあるもので、人を助けるための技術を学ぼう。知っていれば災害時に誰かを守れる知識が盛りだくさん!
例:ロープワーク・応急手当

4

チーム対抗
トライアルゲーム
~総集編~

習った技術のおさらい!チーム対抗のゲーム形式で技術を競います。勝ったチームには豪華な商品を贈呈!

日時: 2018年6月10日(日) 10:00~16:00(雨天決行)

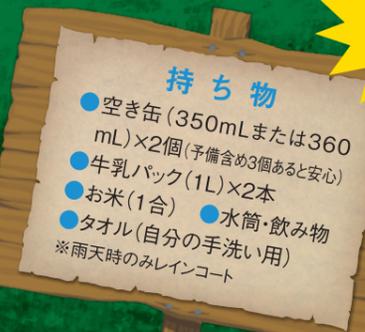
場所: 神戸市立自然の家

対象: グループ従業員 ※こども同伴の場合、要相談
定員: 30名(先着順) 参加費: 無料(昼食付き)
集合: 10:00 神戸市立自然の家 メインキャビン前
協力: NPO法人 プラス・アーツ
お問合せ・申込み: 阪急阪神 未来のゆめ・まちプロジェクト事務局
(阪急阪神ホールディングス(株)人事総務室 総務部 社会貢献担当)

TEL: 06-6373-5086
E-mail: shakai@hankyu-hanshin.co.jp

件名を「サバイバルキャンプ申込み」とし、本文に「所属会社・部署名」、「参加者名(フリガナ)」、「携帯電話番号」を明記のうえ5月31日(木)までに、上記事務局までメールでお申込みください。

社会貢献
ポイント
10pt進呈!



持ち物

- 空き缶(350mLまたは360mL)×2個(予備含め3個あると安心)
 - 牛乳パック(1L)×2本
 - お米(1合)
 - タオル(自分の手洗い用)
 - 水筒・飲み物
- ※雨天時のみレインコート



series
85

四季と自然を遊びつくすには、 野外に出なきゃもったいない!

カラダを動かせ、
ココロも動く。



主な拠点は指定管理を受けている豊中市立青少年自然の家「わっばる」。

NPO法人 豊中市青少年野外活動協会

T E L : 06-6151-5144
E-mail : jimuyakyo.com
U R L : http://www.yakyo.com/
事務所 : 豊中市

大阪で働く人々のベッドタウンとして発展してきた豊中市は、公園や街路樹など人工的につくられた環境が多く、子ども達が自然にふれる機会は少ない。そんな子ども達に自然体験の素晴らしさを伝えるべく立ち上がったのが「豊中市青少年野外活動協会」だ。

夏のキャンプや冬のスキー、サイクリング、ハイキング…と四季折々の野外イベントを行っている。火おこしに苦戦したり、テントに泊まって見たこともない満点の星空に出会ったり。大自然

とふれ合いアクティブに体を動かすことで、心まで健やかになっていくことも珍しくない。密度の濃い時間を学校以外の仲間と過ごし、友達が増えていくのも嬉しい収穫である。モットーは「自然を愛する心 子どもを愛する心」。約60名の学生・社会人がキャンプ「カウンセラー」としてボランティアで事業の企画・運営を行っている。彼らの主体性を伸ばす機会にもなり、幅広く次世代の育成に寄与しているのだ。

series
86

欠食、孤食をストップ! 子ども達の居場所は食堂にあり。

ご飯を食べない「欠食」や、一人で食べる「孤食」。健やかに生きる基本であるはずの「食べること」が今、危機を迎えている。「ブレインヒューマニティー」はこの危機に対し、食事に課題を抱える子ども達に、食堂というスタイルで寄り添い、サポートを行っている。

大学生主体で運営されているこの団体の設立は1994年。阪神・淡路大震災での被災者支援をきっかけに、家庭教師やキャンプなど幅広いボランティア活動で子ども達に接し続けてきた。そんな中で、学習や遊び以前の“生活”が整っていない子ども達の存在に気づき、2015年に「にしのみや子ども食堂」をオープンさせたのである。

食堂では週1回、栄養価の高いメニューを100円という低価格で提供。健康面のサポートはもちろん、大学生や他の子どもと一緒に食卓を囲むことで、和気あいあいとした団らんのひとつを感じてもらう効果もある。誰かと食べるご飯の美味しさや楽しさをもっと多くの子どもに伝えるように、2018年2月夙川に新店舗を開設。あたたかい食事と優しい笑顔で「おかえり、ご飯だよ」と出迎えてくれる食堂は、子ども達の心の居場所としてぬくもりを与えている。



心の空腹
満たして
あげたい

対象年齢は6～18歳。献立づくりも学生ボランティアによるものだ。



NPO法人
ブレインヒューマニティー

T E L : 0798-63-4441 (本部事務局)
E-mail : info@brainhumanity.or.jp
U R L : http://www.brainhumanity.or.jp/
事務所 : 西宮市

チェンソーの
達人、
森を守る



series
84

週末は森林でチェーンソー!? 市民みんなで森づくり。

地図の約7割が森林で占められる日本で今、深刻なのが「森林の手入れ不足」である。そんな中、「森林から恩恵を受けている一般市民が森林整備を行うべき」という強い思いのもと、「日本森林ボランティア協会」は1997年に誕生した。事務局長の山本博さんは語る。「当時私は林業に携わる会社員。放置森林問題の解決策を探っているときに、スギやヒノキを手入れする森林キャンプが開かれていると聞きまして。こんな風にも人を集めて森林整備をする機会が増えたら…そう思って、キャンプリーダーをしていた現理事長に声をかけたことが設立のきっかけなんです」

主な活動は2つ。ひとつは、一般市民参加型の「森づくり体験」。間伐を中心に、何とチェーンソーを使用して本格的に森林整備を行う。「もちろん最初は簡単な作業からスタート。でも、チェーンソーを使う経験なんて普段ないでしょう?木を切るって面白いんだ、と思ってほしいし、技術が身につくと強みになりますからね。森林整備に興味を持つきっかけになるように、木工クラフトや自然観察会などお楽しみイベントも併せて行っています」

もうひとつは「森林大学」と呼ばれる、森林ボランティアリーダーの育成だ。座学と実習のカリキュラムで森林にまつわる正しい知識と技術を習得。協会の会員になったり、他の地域の森林で活躍したり、「森林の守り人」として送り出される修了生は785人にもなる。

昨年で創立20年。箕面国有林の整備から始まり、現在活動地は10か所以上にのぼる。チェーンソーが使えるということで、災害時の応援に呼ばれたり、企業のCSR活動のお手伝いをしたりと、活動の幅も広がった。協会のテーマは「月に一度は山仕事」。気分転換や趣味の一環のように、林業に気軽に携わってほしいと山本さんは願う。「自分達が整備してきれいになった山を見るのが一番のやりがいです。20周年を終え、今後も安全を徹底して活動を続けます。それが、森林の未来を守ると信じて」



参加者は10～70代と老若男女幅広い。異年齢・異業種の人のつながりが魅力とのこと。

NPO法人 日本森林ボランティア協会

団体では、森づくり体験や森林大学の参加者を募集しています。寄付の受付も行っていますので、詳しくは公式サイトにてご確認ください。

T E L : 06-6376-8255 E-mail : mori@npomori.jp
U R L : http://www.npomori.jp/ 事務所 : 大阪市